

第6回学校関係者評価委員会
会議議事録

日時：平成28年3月3日 18:30~20:45

場所：社会医学技術学院 大会議室

出席者：小川委員、武市委員、塚本委員、本木委員、花宮委員、西村委員、山田学院長、
遠藤副学院長、清水事務長、帯刀学科長、藤本自己評価委員、照井自己評価委員

欠席者：長浜委員、藤野委員

1. 学院長挨拶

委員の意見をいただき、学院の各業務を改善し、学院をより良い養成校にしたい。

2. 委員長挨拶

書類確認。新しい学院案内、募集要項について。

コメント集計によって最終的な報告書にしたい。

欠席者：藤野委員

3. 議長選任：武市委員

4. 前回議事確認：卒業生就職先アンケート。平成26年度自己評価報告書等について。

5. 報告書作成について：

基準1 教育理念・目的・育成人材像

③について、誤字あり「人勢育成」

基準2 学校運営

①について

(西村) 個人情報の側面もあり、個人が何に悩んでいるかが見えにくいのではないかと。

⇒学院では学科ごとにパスワード管理している

②について

(塚本) 具体的にどのような機会を設けているのか。

⇒中期計画案を通して話し合う機会を設けて共通課題を明確にしはじめた。今後もそれを継続していき、全職員から意見を吸い上げていく。

④について

(小川) 法律、規則の改正など、役所の方針に対しては、事務的なものは最小低限度で対応、処理したらよい。教育内容など学院側の事情による改正も含め、適宜、改正していくべきである。

基準3 教育活動

②について

(西村) 授業評価は頑張っている教員が意欲を下げないようにと思う。

2年後、5年後などで、学んだことが社会でどう役立ったかの追跡も重要と考える。

⇒授業評価の結果を管理職側としても真に受けるようなことはないように注意している。追跡調査は、どのような科目だったかをそもそも覚えていない場合があり、

どのようなアンケートにするとより建設的なアンケートになるかを検討中である。
(西村) 対象者を思いやる仕事なので、知識だけにならないようにしていただきたい。

④について

(帯刀) お互いに勉強しあおうという視点でFDを月に一回実施している。時間の設定には限界もあるが、学会の報告、研究発表伝達も織り交ぜている。

(藤本) 教員としては参考になる情報共有もあり有意義に感じている。

⑤について

(帯刀) なかなか厳しい状況である。

(山田) 自分たちの対策について振り返るいい機会とし、謙虚に受け止めている。

(西村) 入学生の質が変わってきていることも背景にあるのか。

(山田) それもあるかもしれないが、それであっても他校に差をつけられるようにしたい。

(西村) 入学前に入学前指導も検討していいと思う。

(本木) 学院の学生はよく勉強していると思う。もし国家試験がダメだったらその学生については触れることがタブーな印象ある。実際にはどのようなフォローを行っているのか。

(藤本) 仕事も含め、該当学生には支援しており、一人で頑張らないといけないと思わないように、やりとりは継続している。不合格を良い結果だったと思える学生は多いと感じる。学内にいる時と大きくは変わらない支援をしている。

(帯刀) 個別指導だが、学院に来てもらえないと手薄になる難しさがある。

(西村) 合格する可能性が高くないと国家試験を受験させてもらえない場合があるとの話を聞くが。

(山田) 学院の合格率は大切だが、それだけではないとも考えている。最短の合格がいいのか、そうでない場合はどうなのかも考えている。

(帯刀) 最短では合格に届かない層をどうしたらいいのか、方法論を含めて検討すべきであると感じている。

(本木) 面倒見がいい、というのは一つのキーワードだと考える。そこは別な面での評価になっていると思う。多少厳しくてもきちんとフォローしますという所はプッシュすべき。

(西村) 就職できない場合はアルバイトのフォローなどはどうしているか。

(帯刀) 個人によるが、ネットワークを通じてフォローをしている。

(本木) 他職種連携について、学生の将来的にも重要と考えるので、盛り込んでもらいたい。

(山田) 厚労省の指定規則にも盛り込まれるので、そこはよりやる流れになっている。

⑦について

(帯刀) 卒業生との交流は非常に大事なことと考える。科目の中でもOBに分担してもらっている。

(山田) 色々な領域のOBがいるので、そうすることが伝統を強めることにつながると考えている。

(武市) 同窓会の方にも協力依頼がよりあると、より良いと考える。

基準4 学修成果

(西村) 高校でも職場に行きなさいと促している。

(清水) 離職率については、転職してスキルアップすることも多い職種なので、一概に離

職率としてはとらえ難いと言える。

(武市) 心を病んでしまう場合も見聞きしている。そこも対策する必要がある。

基準5 学生支援

カウンセリングについて

(清水) カウンセリングは在校生で手一杯な状況である。新規ではなく、在校生時代から対応している学生については卒業後もカウンセリングを紹介先クリニックで対応している。

(西村) 中途退学が出そうな時は高校への連絡をしてもらえると連携できる。これによってマイナスの評価を高校が養成校に対して抱くより、むしろ連携、学生を支援しようとしているとプラスの評価になる。

(遠藤) 学費については、シミュレーションを示している。

(西村) 保護者向けと学生向けで説明し、保護者向けにはマネープランを示すなどして説明内容を分けている。実習は、行く先に応じて変わるのかなど具体的だとありがたい。

(清水) 募集要項にも示している。

(山田) よりPRすべきかと思う。

ストレスチェックについて

(清水) 入学時に簡易な健康調査を行っている。

(花宮) 入学時もそうだが、進級時などに実施するような形の方がより良いと考える。

基準6 教育環境

⑤について

(清水) 授業の合間を縫って避難訓練は昨年末に実施した。

(山田) SV研修会は毎年実施している。

(山田) 評価基準は曖昧なものではなく、きちんと説明できるものにするよう気を付けている。

教員と実習地との連携について

(帯刀) 実習地に複数回訪問し、最終成績をつける際は教員も一緒に行くことをできるだけやっている。今後もそうしたいと考えている。

(藤本) 教員として外の人間が実習地にあまり出ていくと迷惑な場合もある点が懸念。

(帯刀) 教員と実習指導者で両輪だと考えているのでうまく合致していきたい。

防災について

(清水) 備蓄をするなどして備えている。

(小川) 大学の場合、消防法に則っても、いくら教員がいても実際には難しい部分もある。

普段から建物内に物を置いておかないなどきちんとしておくことは大切。そうすると火災がいざあってもより被害は軽減できる。学院の駐車場を使うなど、実際に即した訓練を行っておく必要があると防火管理者経験からも感じる。

基準7 学生の募集と受け入れ

②について

(西村) 夜間というだけで教員が抵抗を示す傾向があるので、理解不足があると思う。夜間部のある大学等では、夜間授業を見てもらうようにしている。

OTの認知不足について

(山田) なかなか、伝わりにくく苦勞している。

(西村) 医療だと、まず医者か看護。リハはその後になるのでなかなか認知が低い。職業体験があると、高校生にも参加を促しやすいので、イベントは今後も積極的にやってほしい。

基準8 財務

(遠藤) 広報はチラシなどを通してより周知するようにしている。

(清水) 現段階では財務状況は良いが、今後定員減少が継続すると厳しい状況である。

基準9 法令等の遵守

(遠藤) ハラスメントは学生にアンケートを実施したり、SV会議でも実習中のハラスメントについて啓蒙する。

基準10 社会貢献・地域貢献

(武市) パラリンピックに学生をボランティアとして斡旋してはどうか。

(西村) 宿泊型避難訓練は毛布一枚で過ごしてみるなどの内容。震災があった時に何ができるかを若者に考えてもらう。学院学生ではテーピングや三角布など、震災時の支援についてなど考えさせる機会、啓蒙になるのではないか。

外国の対象者を診る機会が増えることが考えられるので、英会話力を向上させるといいと考える。

(本木) さくら体操では、社医学が会場として人気がある。地域の方、高齢者を対象とした講座を開いてはどうか。

その他

(山田) 認知症サポーター養成講座は今年度から授業に盛り込んでいる。

5. 報告書作成について連絡

6. 報告書、議事録公開について連絡。次期就任依頼について連絡。来年度委員会活動予定について連絡。

議長より

具体的な意見を交わせたので有意義な会議となった。今後もしっかりと進めていきたい。

以上

平成28年3月3日

議事録署名人

武市裕貴

議事録署名人

小山 精二